



伝え合うことの楽しさを味わわせる環境構成と援助の工夫

～様々な体験活動を通して～

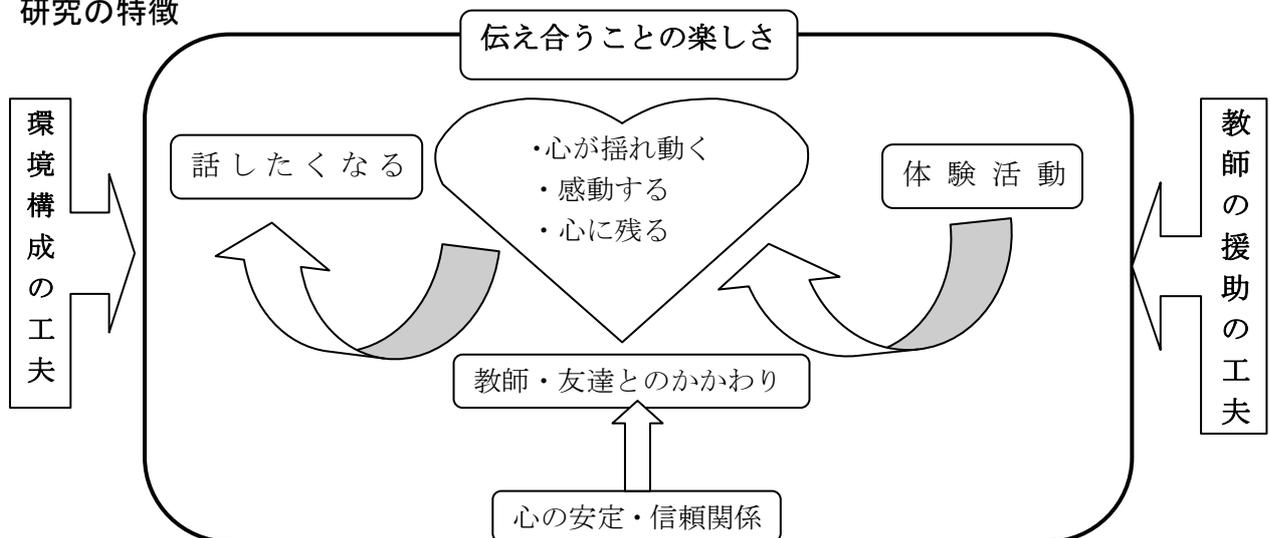
豊見城市立座安幼稚園教諭 平 良 智 子

1 研究テーマについて

これまでの保育を振り返ると、一年生に向けてきちんと話が聞けるようにとの思いで「聞く態度」だけを重視するあまり、幼児が自分の気持ちを表現する楽しさや幼児同士の言葉のやりとりに細かく目をとめてなかったと反省する。

そこで、幼児がさまざまな体験や友達同士の言葉のやりとりで楽しさやおもしろさに気づき、伝え合うことの楽しさを味わうことができるような感動体験や幼児が話したいと思える環境構成と援助の工夫を探る。

2 研究の特徴



3 保育の実践



ペーパサート作り



衣装選び



セリフの相談

4 研究の成果

- (1) 友達と話し合ったり、遊びが発展できるように環境構成をしたことで、幼児の心を動かし友達とのかかわりが広がって、自分の思いや考えを言葉で伝えることができた。
- (2) 幼児の言葉や表情を受け止め、教師が状況に応じた援助をすることで、幼児同士の言葉のやりとりができるようになった。
- (3) 様々な体験活動をすることで、幼児同士の信頼関係を築き、話したくなる気持ちが出てきた。

〈幼稚園教育〉

伝え合うことの楽しさを味わわせる環境構成と援助の工夫

～様々な体験活動を通して～

豊見城市立座安幼稚園教諭 平 良 智 子

I テーマ設定の理由

近年、幼児を取り巻く環境が少子化、核家族化、都市化、情報化、人間関係の希薄化等社会の急激な変化でコミュニケーション能力の不足、親や教師以外の地域の大人や異年齢の子どもたちとの交流の場や自然体験の減少など子どもの育ちにも変化が見られるようになってきた。家庭においては、親子でゆっくり会話を楽しむことや、少子化に伴い兄弟姉妹でぶつかり合いなどを通して葛藤しながら成長する体験の機会が減少してきているように思われる。また、科学技術の発達に伴い、ゲームやパソコンなど遊びの内容も大きく変化している。そのため、自分の考えや思いを言葉で表現できず、気持ちを伝えあうことが苦手な子が多くなってきているのではないだろうか。

幼稚園教育の基本では、「幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」とある。

教師は、幼児と常に言葉を交わす相手であり幼児の言葉の環境そのもので、幼児の大好きな人の存在、楽しい会話で言葉が育つと言われている。

幼稚園教育要領の領域「言葉」の内容の取り扱いでは、「幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。」とある。

また、領域「人間関係」においても「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。」とあり、人間関係を豊かに築くうえでも「伝え合う」ことは、最も大切なコミュニケーションのひとつであると考えられる。

本園の幼児は、明るく活発で積極的に話しかける子も多いが、自分から友達に話しかけられず誘いを待っている子、友達とのトラブルで気持ちをうまく伝えることができず泣いてしまう子、思っていることを友達に言えず教師に助けを求める子、などがみられる。

今までの保育を振り返ると、一年生に向けてきちんと話が聞けるようにとの思いで「聞く態度」だけを重視するあまり、幼児が自分の気持ちを表現する楽しさや幼児同士の言葉のやりとりを細かく目を止めていなかったと痛感している。

そこで、本研究において、幼児が自分の思いを言葉で伝え合うことができるようになるには、様々な体験や友達同士の言葉のやりとりで伝え合うことの楽しさを味わうことができると考え、様々な体験や幼児が話したいと思える環境構成と援助の工夫を研究したいと思う。

II 研究目標

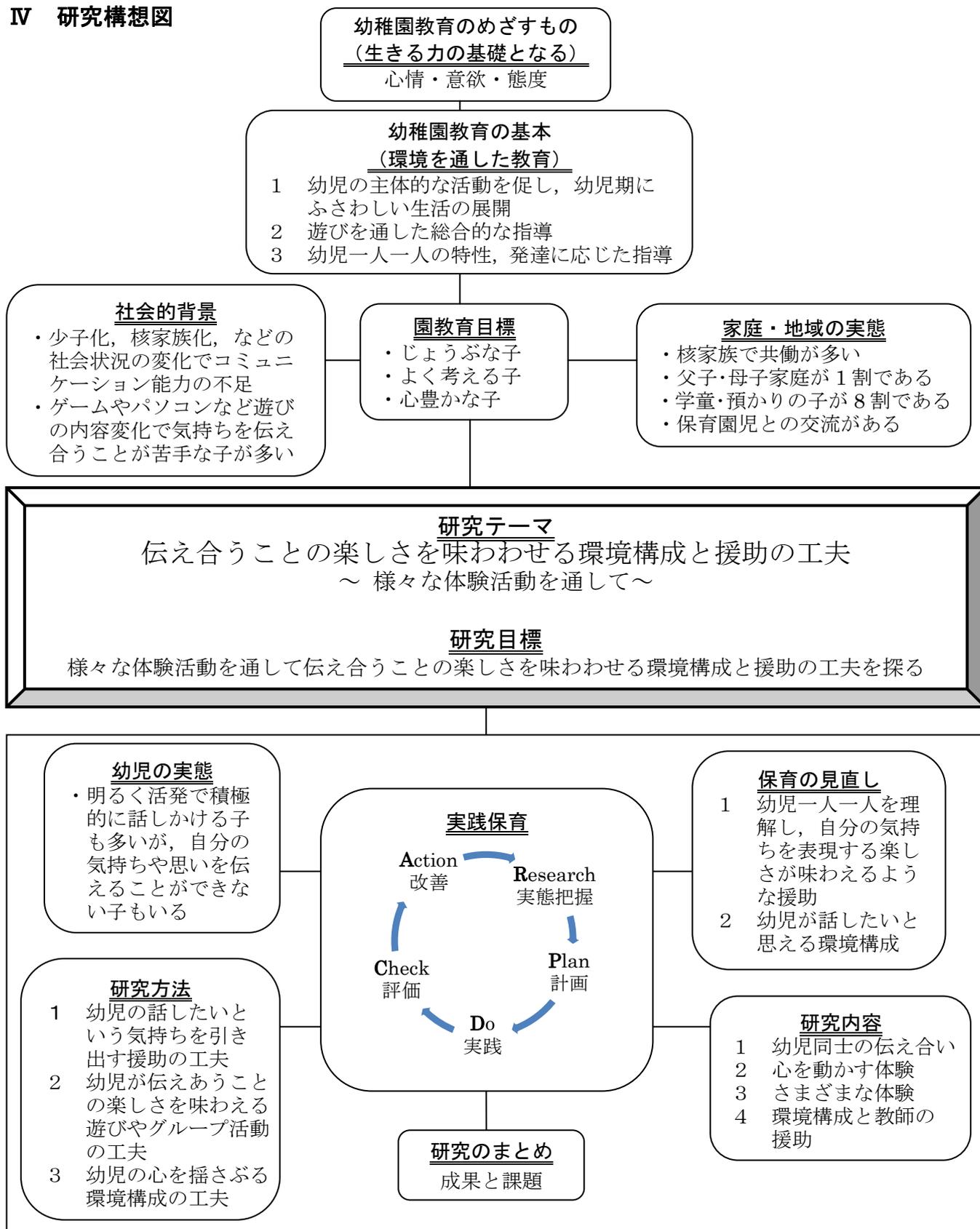
様々な体験活動を通して、伝え合うことの楽しさを味わわせる環境構成と援助の工夫を探る。

III 研究の方法

1 幼児の話したいという気持ちを引き出す援助の工夫

- 2 幼児が伝えあうことの楽しさを味わえる遊びやグループ活動の工夫
- 3 幼児の心を揺さぶる環境構成の工夫

IV 研究構想図



V 研究内容

1 幼児同士の伝え合い

幼児は、自分の思いを自分なりの言葉で表現し、それを教師や友達にうなずいてもらったり、受け止めてもらうなど安心して言葉を交わせる雰囲気や関係を通して親しみを感じ、もっと話そうとするが、一方的に思いを伝えるのでうまく伝わらずトラブルになったりする。しかし、うまく伝わって遊びが楽しくなると体験したことや経験したことを次第に相手に分かるように伝えようとするようになる。伝わる喜びを感じると言葉を使って表現する楽しさが分かり、相手への親しみも持てるようになる。そして、相手の思いや考えも一生懸命聞こうとするようになり、それが自分に伝わってくる楽しさや喜びを感じることで次第に伝え合うことができるようになってくる。

領域「言葉」の内容の取扱い(1)では、「言葉は、身近な人に親しみを持って接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児とかかわることにより心を動かすような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること」と書かれている。伝え合うためには、相手の話を聞いてみたい、分かりたいという思いが重要である。それには、聞いてみたいと思える関係を育てていくことが必要であると考えられる。聞いてみたいと思える関係とは、仲の良い関係をさすだけではなく教師や友達と伝え合い聞き合うことは楽しいという気持ちを保育の中の様々な場面で育てていくことである。

このことから「伝え合い」とは、教師や友達に親しみを持ってかかわり、話を聞いてくれることによって、言葉でのやりとりが楽しいと思えるような体験や聞いてもらいたいと思えるような体験など様々な体験が心を動かす体験となり次第に伝え合うことができるようになっていく。

2 心を動かす体験

幼児は、日常生活の中で様々な環境から刺激を受けて心を動かす。それは、親や教師など身近な人の言葉や行動、友達との遊びの中での葛藤や共感であったり、異年齢児や高齢者などと触れ合うぬくもり、飼育物や栽培物など豊かな自然とのかかわりによる不思議さや感動などであったりする。また、遊びの中で発見したり新たなことを思いついたり、感じたり、気づいたり、考えたりすることで心を動かし、喜怒哀楽の感情がわき起こる。

そして、幼児は内面に起こる様々なイメージ、感情や感動、疑問に思ったことなどを口にしたり、教師や友達など誰かに伝えたくなくなったりする。

3 様々な体験

様々な体験は、何か特別なことを数多く体験することではなく、日常生活のなかで体験することができる。それは、友達とブロック遊びや折り紙遊びをしたり、園庭で思い切り体を動かして遊んだり、教師や友達と一緒に絵本を見たり、物語を聞いたりして楽しみ、想像上の世界や未知の世界に出会い、様々な思いを巡らせたりすることである。また、園行事の誕生会や運動会、発表会、遠足や季節毎の取り組みなどもある。

このような様々な体験が幼児の言葉の土壌となる。

4 環境構成と教師の援助について

伝えあうことの楽しさを味わわせるための環境構成と教師の援助の視点を以下のように考えた。

(1) 環境の工夫の視点

- ①教師や友達と安心して話すことができる雰囲気作り
- ②幼児が心を動かすような様々な体験ができる環境構成
- ③イメージが湧いてくるような環境構成
- ④教師や友達同士といろいろな話し合いができるような場

(2) 教師の援助の工夫の視点

- ① 幼児との信頼関係を築く
- ② 一人ひとりの思いや考えを認める
- ③ 幼児の発見や驚き、喜びや悲しみなどの表現を受け止める
- ④ 状況に応じて代弁者となり、わかりやすい言葉で話す

VI 研究の実際

1 検証保育（1回目 11月）「ペープサートで遊ぼう」

(1) 設定理由

友達と一緒に共通の目的を持ち、イメージを共有して「ねずみの嫁入り」のペープサートを製作して遊ぶことで、自分の思いや考えを言葉で伝えながら相手の考えや気持ちも受け止めてほしいと思い設定した。

(2) 保育のねらい

- ・自分の思いを伝えようとする。

(3) 検証のねらい

- ・幼児が自分の気持ちを伝えられるようにするための援助をする。

(4) 環境の工夫

- ① いろいろな材料を準備し、グループの仲間と相談しながらペープサート作りを楽しめるように環境を整える。
- ② 幼児にイメージを持たせるために絵本を見せて自分の思いを伝えながら作れるようにする。
- ③ 友達と一緒にいつでも誘いあって作ったペープサートで遊べるようにコーナーを準備する。
- ④ それぞれが自分の演じたい役を話し合う場を設ける。

(5) 教師の援助

- ① 一人一人を認めながら工夫しているところをみんなに知らせる。
- ② 自分の気持ちを伝えられない子に寄り添い気持ちを聞いたり、近くの子へ声をかけて一緒に作ったり、話し合いができるように援助する。
- ③ 教師も一緒になってできあがったペープサートで遊び、幼児の言葉を引き出せるようにする。

(6) 実践計画

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
11月11日 (金)	・一人一人の工夫を認める援助をすることで幼児の言葉を引き出す。	・ペープサート作りに意欲的に取り組む。 ・友達と相談しながら協力して作る。	○幼児が相談しながら作れるようにいろいろな材料を準備する。 ★絵本を見せてどのように作ったらいいか迷っている幼児にイメージを持たせる。 ★取り組んでいる姿を認め、やり方などを紹介す	・「洋服作るからAちゃんは、体作ってよ」「こっちはどうする?」「絵本見てみよう」等お互いに話し合いながら進めている。 ・「難しいからできない」「わからん」と言って座り込む子がいる。	・「こっちに新聞つけたいな」という幼児の言葉に「良い考えね」と認めたことで幼児同士「こっちは、新聞でやろう」「箱がいいんじゃない?」「こんなしよう?」等自分の考えを伝えあっていた。 ・幼児がイメージを持って取り組めるような環境構成の工夫が

			<p>ることで苦手としている幼児へ声かけの工夫をする。</p>		<p>足りなかった。</p> <p>こっちにつけよう</p>
<p>11月16日(水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達とお互いの思いを出せるように物語のイメージを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が作ったペープサートで遊ぶ。 友達と一緒に遊びながら取り合い等でトラブルも見られる。 	<p>○ペープサートは、見やすいように机の上に並べる。</p> <p>★互いの思いが伝わらずトラブルになっている時には必要に応じて仲立ちをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「これやりたい」と太陽・雲・風・壁を手に「雲が太陽隠すんだよ」「風は、フーして」など物語のイメージを持って遊んでいる。 「やりたいのに誰も貸してくれない」と訴える子の言葉を聞き「持つ人と言う人になればいい」という提案をする子がいる。その言葉を聞き「それがいい」と分かれ、遊び始める。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語のイメージを持って自分なりの表現方法で楽しんでいた。 幼児同士「これ持って」「こんなして」と教え合いながら楽しんでいた。 ペープサートは、棒をつけてなく片付けも机の上なので幼児の関心が薄いため置き方を工夫したい。
<p>11月17日(木)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言葉で伝えることができるように環境を整え、教師も一緒に遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 友達を誘って新しくなったペープサートで遊ぶ。 	<p>○ペープサートに棒をつけて持ちやすくする。</p> <p>○絵本棚を利用して立てかけて置き自由に取出しやすく、遊びたくなるような環境構成にする。</p> <p>★物語を想像しながら楽しめるように幼児の言葉や表現に共感する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「よく見えるようになってきている」と新しくなったペープサートを手に取る。 「一緒にやろう」と誘い合って自分がやりたいペープサートを手にする。 「どうする?」「先生が言って」と絵本を持ってきてナレーターを頼む。 自分の場面で恥ずかしがりながらセリフを言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境構成を変える事で友達を誘って遊ぶ姿が見られた。 セリフとなると恥ずかしがりになってしまうが気の合う友達と一緒にの時には、自分なりに物語を思い出しながら話したり教え合ったりしている。

		<p>棒をつけて見やすく、遊びやすくなるような環境構成をする</p>			
<p>11月22日(火)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを伝えることができない子に寄り添い、言葉を引き出す 	<ul style="list-style-type: none"> 思ったことを話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージを持って話し合いができるようにペープサートを見やすい位置に置く。 ★どのように決めるのか幼児同士相談ができるように一緒に考えて言葉を引き出していくように援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ペープサートにこだわっていた。 「じゃんけんで決める」「やりたいのやる」「ゆっくりに決めたい」などの意見が出る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを伝えることができない子に寄り添い「先生傍にいるからみんなに話してごらん」と声をかけると教師に寄り添いながら、自分の思いを伝えることができた。 一人一人の子どもの声をしっかり聞いて話し合い活動を進めることができなかった。
<p>【幼児の変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで1つのものを作るという共同作業を行うことで「どんなして作る?」「こんながいいんじゃない?」などお互いの思いや考えを出し合いながら進めることができた。 ペープサートを幼児の視覚に入るように工夫したことでよりイメージが出てきた。 出来上がったペープサートを見やすく取り出しやすくすることで興味関心が高まり友達同士絵本のセリフを真似て遊ぶ姿が見られた。 今までは何でもじゃんけんで決めていたが役決めの話し合いでは、みんなで相談して決めるという事でいろいろな意見を出し合う姿が見られた。 <p>【改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ活動ではお互いの思いを出し合い話し合うことができたがクラス全員で行うと教師自身がまとめなければいけないという焦りから子ども一人一人の声を聞いてあげることができず、子ども達の集中力もなくしてしまった。 <p>そこで、全員での話し合いでは自分の思いを出すことができないので、少人数で話し合える環境の工夫と、一人一人の言葉を丁寧に聞いてあげられるような援助を工夫していきたい。</p>					

2 検証保育（2回目 11月）「劇遊びを楽しむ」

(1) 設定理由

グループ活動で共通の目的を持ちイメージを共有して劇遊びを楽しむことで、自分の思いや考えを言葉で伝えながら相手の考えや気持ちも受け止めてほしいと思い設定した。

(2) 保育のねらい

- 自分の思いや考えを伝えようとしながら友達と一緒に遊ぶ。

(3) 検証のねらい

- 幼児が自分の気持ちを伝えたり、相手の思いを聞きながら遊びが進められるように援助する。

(4) 環境の工夫

- ①幼児にイメージを持たせるためにいつでも絵本が見られるように配置する。
- ②イメージが持てるようにさまざまな衣装や小道具・材料を準備する。

- ③友達同士で相談しながら、衣装や小道具を自由に使えるような配置を考える。
- ④お互いが考えたセリフや動きを見せ合い、認め合えるような楽しい雰囲気を作る。

(5) 教師の援助

- ①一人一人を認めながら工夫しているところをみんなに知らせる。
- ②教師も一緒になって遊び、自分の思いや考えを伝えきれない幼児に寄り添い言葉を引き出せるように援助する。
- ③幼児が自分の思いを受け入れてもらった嬉しさに共感したり相手の思いを受け入れる様子を認める。

(6) 実践計画

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成の工夫 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
11月24日(木)	・自分の思いを伝えられるように援助をする。	・思ったことを話す。 ・絵本を見ながら考える。	★どのようなセリフがいいか幼児同士相談ができるように一緒に考えて言葉を引き出していく援助をする。	・友達同士いろいろな意見を出し合っていた。 ・絵本をみながら決めるグループもいた。	・教師が言葉を引き出す援助がなくてもグループに分かれたので、幼児同士いろいろな意見を出しながら、活発に行われていた。
11月25日(金)	・自分の考えを言葉で伝えることができるように環境を整え、友達と相談できるようにする	・お互いの思いを出し合う。 ・友達同士で相談する。	○イメージが持てるように様々な衣装や使いそうな小道具・材料を準備する。	・絵本を見ながら考えるグループもいる。 ・様々な衣装を見ながら「これは風にみえないよ」「雲はモクモクしているのいいなあ」などそれぞれの役のイメージを伝え合う。	・様々な衣装や小道具を準備したことで幼児のイメージを持たせながら友達同士で相談し合っていた。
11月28日(月)	・自分の思いを伝え合えることができるような環境構成をする。	・やりたい役のグループができる。	★自分の思いが受け入れられた嬉しさに共感したり、相手の思いを受け入れる姿を認める。	・やりたい役のグループに分かれる ・役ごとにセリフを決める。	・少人数グループになることで自分の思いを伝えることができた。 ・絵本を読んだりペーパーサートで遊ぶことで、自分のやりたい役のイメージができてきた。
11月29日(火)	・自分の思いを伝え合うことができるように一人一人に寄り添い援助	・配役毎に集まって話しをする。 ・喜んで衣装を着ける。	○衣装や小道具を幼児が自由に使えるような配置を考え、友達同士で相談できるような雰囲気作	・配役毎に集まって話し合いをするグループやその場を楽しんで遊ぶグループもいる。 ・衣装を巡って意見	・衣装や小道具を自由に使えるような配置にすることで配役の友達同士相談したり、自分の考えとの違いなど伝え合う場が

本時	をする。		りをする。 ★自分の思いが伝えられない子に寄り添い言葉を引き出すように援助する。	の違いがあり話し合う姿が見られた	見られた。 ・お互いの思いを伝え合うことで劇遊びに向けて少しずつ楽しめるようになった。
----	------	--	---	------------------	--

(7) 保育の展開(本時)

幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 好きな友達と教え合ったり、協力しながらさまざまな遊びを楽しんでいる。 気の合う友達と誘い合って遊びに取り組むが遊具の取り合いでトラブルになる子もいる。 自分がやりたい役を楽しんでいる。 				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを伝えようとしながら友達と一緒に劇遊びを楽しむ。 	内容	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ちを相手に分かるように話す 相手の話を注意して聞き相手の思いも知る 		
時間	予想される幼児の活動	○環境構成	★教師の援助		
8:00	<ul style="list-style-type: none"> *登園する。 ・水やり、挨拶、所持品始末をする。 *好きな遊びを楽しむ。 (楽器・ブロック・ペープサート等) 	○健康状態を把握するために一人一人と挨拶を交わす。	<ul style="list-style-type: none"> ○前日までの遊びの続きができるようにしておく。 ★遊びが楽しめるようにするために楽器を自由に使えるように配置し、必要な声かけや援助をする。 		
9:00	<ul style="list-style-type: none"> *劇遊びをする。 ・配役毎のグループでセリフ・動きを確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ・グループで衣装を決める。  <ul style="list-style-type: none"> ・グループで練習をする。 	○衣装や小道具を幼児が自由に使えるような配置を考え、グループの友達同士で相談できるような雰囲気作りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ★見せたいという気持ちも出てくることを意識して、動きやセリフを考えられるように援助する。 ○話し合いや練習ができるように各グループの集まり方を工夫する。 ★トラブルが起こったときには、幼児の思いを受け止め一緒に考えていく。 ★自分の思いが伝えられない子に寄り添い言葉を引き出すように援助する。 ★自分の思いを受け入れてもらった嬉しさに共感したり、相手の思いを受け入れる様子を認めたりする。 ○お互いが考えたセリフや動きを見せ合い、認め合えるような楽しい雰囲気を作る。 ★一人ひとりのイメージを大切に、認めながら自信をもって表現していけるように援助する。 ★一人ひとりのがんばりと、みんなが気持ちを合わせることでたのしい劇になることを伝えていく。 		
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で劇遊びをする。 	○イメージを共有しながら、それぞれの役を十分楽しんでいけるような雰囲気作りをする。			

【幼児の変容】

- ・絵本の読み聞かせや、ペープサート遊びを通してそれぞれがイメージを持つことができ、自分のやりたい役を自分の意志で決めることができた。
- ・配役ごとに話し合うことで自分の意見を出し、相手の考えや気持ちも聞くことができた。
- ・一人だけの役の幼児もいたがセリフや衣装を決める時には、近くにいた友達と一緒に練習したり「これ着けたら？」など衣装のアドバイスをする場面が見られた。

【改善】

- ・発表会が近づいていたこともあり、教師が先走って衣装や小道具を準備したことで幼児がじっくりセリフや動き、衣装のことを友達同士で考える時間を作ることができなかった。
そこで、幼児が自分の思いを出し合うには、教師自身が子どもの声を聞くゆとりを持つことが大切だと感じた。

3 様々な体験活動の事例

事例1 「サッカーやろう」・・・【お互いの思いを出し合えた事例】

園庭で気の合う仲間数人で誘い合ってサッカーを楽しんでいる。

初めは、ボールを蹴って遊ぶだけだったが、A男「サッカーは、キーパーがいるんだよ」

B男「じゃーおれがキーパーするよ」 C男「サッカーは、網みたいなのがあるさー」

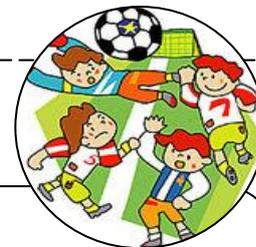
A男「幼稚園にはないよ」 その会話を聞いて教師がゴールネットを準備する。

翌日から「サッカーやろう」と誘い合って「線引いた方が良い」「誰がチーム？」などと言いながら遊ぶ

子が増える。しかし、サッカークラブに入っている子がボールを独り占めしてトラブルが起こる。

その様子を見て教師も一緒に遊びに入り「ルール」を聞くとみんなバラバラの返事が返ってくる。

「みんな違うから意味分かん」「ちゃんと決めよう」「チームも誰って決めよう」とお互いの意見を出し合いルールや人数が決まって遊びが再開する。



教師の読み取り

*TV などのなでしこジャパンからサッカーのイメージを幼児一人一人がもっている。

*経験のある子を中心に遊びを進めるがそれぞれの思いのルールで行うためトラブルになる。

しかし、教師と一緒に遊びに加わり、幼児同士の思いを引き出すことで「ルールを決めたら楽しくなる」「みんなで話し合って決めよう」という気持ちが出てきた。

その後は、教師がいなくても幼児同士でルールの確認や話し合って遊びを進めていくことができるようになった。

事例2 「グループの名前どうする？」・・・【互いの気持ちが受け入れられた事例】

夏休み明けのグループ活動でグループ名を決める話し合いをする。

1グループがなかなか話し合いがまとまらず、時間がかかっていたので様子を見ると、K男が他の5人の意見と違うため決めることができずK男自身が怒っていた。

教師も一緒に話し合いに加わり、「自分が考えた名前にしたいよね？どうしようか？」とそれぞれの考えも認めながらK男に寄り添う。どうしたらいいのか考えた二人の子が「2つの名前を合体する」という案を出す。が、K男は、納得せず・・・でも表情は柔らかで笑顔がみられた。

時間がなくおやつの時間になり、おやつを食べながら子ども達同士話し合い、5人が出したグループ名に決定する。

K男に「ほんとにこれでいいのか」尋ねると笑顔で「いいよ」と返事が返ってきた。

教師の読み取り

*今までは、自分の思いが通らないとすぐに怒っていたため、他児も K 男が怒ると「もういいよ」と聞き入れることがなかったが、教師が K 男の気持ちを本児自ら話せるように寄り添うことで他児も話を聞こうとする姿になる。K 男も自分の意見を否定せず、取り入れてくれた友達の気持ちが伝わり、そのことで、本児も納得して認めることができた。

VII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 友達と話し合ったり、遊びが発展できるように環境構成をしたことで、幼児の心を動かし友達とのかかわりが広がって、自分の思いや考えを言葉で伝えることができた。(VI-1-(6))
- (2) 幼児の言葉や表情を受け止め、教師が状況に応じた援助をすることで、幼児同士の言葉のやりとりができるようになった。(VI-2-(6))
- (3) 様々な体験活動をすることで、幼児同士の信頼関係を築き、話したくなる気持ちがでてきた。(VI)

2 今後の課題

- (1) 伝え合う楽しさを味わわせるための幼児の個性や良さを捉えた、さらなる援助の工夫
- (2) 幼児の心を揺さぶり、友達とのかかわりが深まるような体験ができるような環境構成と援助の工夫

《主な参考文献》

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
無藤 隆・柴崎正行編	『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』	ミネルヴァ書房	2009年
高杉自子 柴崎正行 戸田雅美編	『保育内容「言葉」』	ミネルヴァ書房	2006年
森上史朗 柏女霊峰編	『保育用語辞典』	ミネルヴァ書房	2011年